

人文社会学部 人間福祉学科 保育専攻（平成21年度以降入学生用）

教育目的

人間福祉学科保育専攻の教育目的は、本学の建学の精神と教育理念に基づき、和の心と質の高い実践力を持って社会福祉の実践分野で貢献できる人材の養成を目指している。すなわち、地域社会における児童福祉領域での今日的な要請に応えるために、何よりもまず人に対する深い思いやりを持って、より高度な専門的知識と援助技術を活かせる人材を育てあげることに取り組んでいる。このように、本専攻では、わが国において現在急務とされている児童福祉領域の専門家を養成するという課題の一翼を担っているのであるが、とりわけ家族—子育て—地域の協力図式をモデルにした家族・保育福祉の原点にたつて、本学を卒業した後に社会福祉の実践現場で生き生きと活躍することができるように、学生たちが専門的能力を身につけられるよう指導している。

到達目標

本専攻においては、その教育目的を鑑みて、保育学および社会福祉学の専門的知識と援助技術を十分に学べるように配慮してカリキュラムを編成しているので、4年間の学習期間内に専門職に必要とされる知識と技術を修得したうえで、保育士資格と社会福祉士国家試験受験資格の両方の資格を取得させること（編入生を除く）を学修の到達目標としている。また、保育専攻の専門教育科目の履修と並行して、各々の学生が卒業後の進路の選択肢に合せて、人間福祉学科に学科共通科目として配置された専門科目や社会福祉専攻の科目等を受講することにより、乳幼児のみならず、障がい者および高齢者のケアや相談援助に至るまでの多岐にわたるキャリア目標を達成できるように指導している。

履修の仕方

1年次では、主として福祉の仕事（保育を含む）に関する基礎知識や関連領域について講義・演習形式で学ぶ。また、社会福祉の実践分野である社会福祉施設等の学外見学実習を体験する。

2年次からは、1年次に引き続いて、本専攻の到達目標である2資格（保育士資格と社会福祉士国家試験受験資格）取得に必要な指定科目を中心にして講義・演習・実習形式で学ぶ。

3年次は2年次から引き続いて専門科目を履修するとともに、学外実習（保育実習および相談援助実習）に参加し、専門的な実践力を磨いていく。また、各々の学生の自主的選択による『人間福祉演習』（ゼミ）の履修（2年間）が始まる。

4年次では国家試験対策や卒業後のキャリア目標に向けて、ゼミの指導教員とゼミ仲間とともに情報交換しながら、学生自らが大学での学びの総仕上げにかかる。この時期にしっかりとした成果を収めるためには、1年次から計画的に履修を進め、単位をしっかりと修得しておくことが望まれる。